

黑龍江省檔案館編

滿鐵調查報告（第一輯）4

廣西師範大學出版社

昭和九年十二月

興安北分省三河地方調查報告

興安	經濟調查會	第 20 號	經濟第 7 冊
----	-------	--------	---------

經濟調查會一部六班

山崎維城

興

安第四號

經濟調查會

資料第二八三四號

凡 例

一、本稿ハ昭和九年六月三日ヨリ七月一日ニ亘ル興安北分省三河地方一般
經濟調査ノ報告書ニシテ「呼倫貝爾三河地方事情」ニ「行動日誌」ヲ
添附ス

一、三河地方ニ適用サルル度量衡ハ露國ノ舊制ニシテ主要ナルモノハ左ノ
如シ

ウエルスト（露里）
一軒〇六六八―九町七七八八

ブード（布度）
一興莊三八〇四九―四貫三六八一四

フント（露斤）
一秘拉尾五〇二四一―一〇九匁二〇三三九

デシヤチン（露町）
一附〇九二四八八―一町一〇一六四四

一、全三河地方ノ合計十七箇村ノ内筆者ハボクロフカ、ラブダリン、トロ
ントウイ、カルカナ、ボビライノ五箇村ヲ除キ十二箇村ヲ一巡シ、各
村ニツキ戸數、人口、家畜頭數、作物別耕地面積、商舖、職人數、車
輛數其ノ他ノ調査ヲ行ヒタルカ、既ニ發表ノ額爾古納左翼旗公署中村
參事官ノ調査ト餘リ時日ヲ隔テス、大差ナキヲ以テ、本稿ニ掲クルコ

トヲ爲サス剛愛シタリ。

又調査中毎日ノ氣溫ノ記錄ハ同行ノ一下士ノ擔任トシテ一任シタル關係上筆者ノ日記中ニ示サス

一、同行者左ノ如シ

狩谷少尉、扇江伍長以下兵數名、通譯一名

地質班―石川、吉澤、中谷、新谷、大塚

給水班―澤村並助手一名

資源班―坂本、助手一名、通譯一名、山崎

目次

漁業	林產	工業	物價	商業	野生大麻，工業的價值如何	蔬菜	農具及農業從事者	耕作方法	土地使用手續及耕地稅	農業	牧畜	概說	凡例
.....													

43 42 41 34 32 31 30 24 22 21 19 7 1 01
 7-08-1 01

附錄、行動日誌	參考文獻	市民、生活其、他、感想	宗教	財政	公安	行政自治制	教育	交通及通信	藏書
.....									

60 59 56 54 51 50 48 47 45 44

呼倫貝爾三河地方事情

山崎維城

概説

北滿洲ノ西部、興安嶺以西一帯ノ地ハ所謂呼倫貝爾、一名巴爾虎^{バルフ}デア
ツテ、其ノ北部哈爾^{ハル}烏爾^{ウル}河、得爾布^{デルブ}爾^ル河、根^{カン}河、三河川ノ流域、大體舊室
韋縣現在ノ興安北省額爾古納左翼旗ニ當ル地域ヲ三河地方ト稱スル。之
ハ古ク露人カトリ^{カトリ}ヨフ。レ^レジニハ三河川地方ト呼ビ慣ハシタモノヲ其
ノ僦^{キョウ}使用シテ居ルモノテ、是等ノ三河川ハ何レモ滿ソ國境ヲ流レル^ルアル
グン河ニ注キ、其ノ流域地方ニハ殆ト純粹ニ^ニシヤ人ヨリ成ル二十箇ニ
近イ部落カ散在シテ居ル。斯ク任民ヤ其ノ生活狀態カ滿洲ノ他地方ト異
ルタメニ此ノ地方ハ可ナリ以前カラ一部人士ノ興味ヲ惹イテ居タカ、滿
洲國成立後ハ滿ソノ重要接觸地域トシテ政治、經濟、軍事上ノ重要性カ
加ハツテ來タ

本稿ハ本年六月三日海拉爾ヲ出發シ三河地方ヲ一巡シテ七月一日同市
ニ歸來スルマテ一箇月ニ亘リ、筆者カ地質、水質、畜產等ノ専門家ノ調

査旅行ニ同行シツツ單ニ露語ヲ解スルコトシヤ事情研究者トシテ同地方住民ノ一般生活狀態ニ就テ見聞シタ所ヲ記シタモノデアル

先簡單ニ此ノ地方ノ沿革ヲ顧レハ三河地方ノ露住民ハ一九一八年乃至一九二〇年即チ露國十月革命勃發直後ヨリ白軍ノ後貝加爾地方撤退ニ至ル期間ニ後貝加爾コサツコ主權トスル後貝加爾農民及少數ノ露化異種族人ヘツングース、ブリヤート等一カ集團的移任ヲ行ツタモノト其ノ後逐次越境逃亡シ來ツタモノテ、最初彼等ハ間モナク歸國セル心算テ柴國ヒノ上ニ泥ヲ塗ツタミスボラシイ假小屋、ソレハ現在テモシヂニ一ツニ方面ニ殘存スル程度ノモノニ住ンテ我慢シテ居タカ歸國ハ漸次望薄トナリ遂ニ半永住ノ設備ヲ講シテ殆トシベリヤノ村落ト異ラヌ外觀ヲ呈スルニ至ツタ。元來肥沃ナ當地方ノ地味ニ恵マレ僅々七八年ノ短期間ニ無人ニ等シカッタ境ハ農牧ニ依ツテ裕福ナ生活ヲ維持シ得ル地方ト化シ、コサツコ兵村制ニヨル自警團ノ組織ハ同地方ヲシテ北滿唯一ノ馬賊不可侵ノ安全地帶トシタ。其ノ結果一九二九年ノ露支紛爭以前ハ露住民ノ人口八千以上ヲ算シ、現在ノ五千七百餘人ニ比シ遙カニ多ク彼等ニトツテマサ

ニ樂土ノ觀カアツタカ、該紛爭ヲ機トシテソ聯側ノ行ツタバルチン襲
襲ニ依ツテハツル河沿岸部落ハ慘憺タル被害ヲ被リ、其ノ後荒廢ニ歸シ
テシマツタ程テアル。現在露住民ヲ見ル方面ハ左程ノ暴虐ヲ被ラナカツ
タカ、亦色バルチンノ出現ト共ニ住民ノ大部分ハ悉レヲナシ家財ヲ放
置シテ四散逃亡シタタメニヤハリ相當大キナ經濟的打撃ヲ受ケタ。更ニ
四年ヲ經タ一九三二年ノ秋ニハ蘇炳文ノ亂事件カアリ、住民ハ叛軍ノ
爲ニ物資ノ取發ヲ受ケ、再度經濟的打撃ヲ被ツタ。加之露支紛爭以後三
河在住露人從來ノ自衛權喪失ヲ被トシテソ聯ハ同地方住民迫害ノ手ヲ擴
ケ、舊支那側出先官憲ヲ買収籠絡スルト共ニ武装ゾ。ペ。ウ員ヲ潛入セ
シメ、住民間ノ反目ノ助成、有力人物ノ拉致等不斷ニ迫害ノ手ヲ伸ヘテ
居タカ遂ニ滿洲國ノ成立ト共ニ此ノ不安ハ一掃サレ、苛斂誅求モ改マリ
安居樂業ノ實ハ此ノ邊土ニモ普ク及ホサレルニ至ツタ。

三河地方ハ海拉爾カラ北方ニ一四〇軒約三十五里隔絶シテ居ル約一五
〇〇〇平方軒ノ地類テ、大體十五里四方形ノ小天地テ、住民數ハ約五千
五百人ノ露人ト約二百五十人ノ滿人ヲ定住者トシ、他ニツングース、ブ

リヤート、オロヂヨン、ソロン、マクート等ノ游牧狩獵民合計約五百人
カアル。尤モ此ノ内ツングースハ露化シテ部落ニ定住シテ居ル。尙滿人
々口ハ狹義ノ三河ニ含マレナイ、アルグン河、ハウル河沿岸ノ住人ヲ數
ヘレハ千數百人ニ上ルノテアル。十七箇ノ露人部落カラ成ル本來ノ三河
ニハ斯クシテ本年六月現在五千七百五十人戸數約九百六十戸ノ定住者ヲ
有スル譯テアル。虐政ニ喘クソ聯領カラ越境逃亡シテ當地方ニ來住スル
者ノ數ハ最近一年ニ三百名位ニ上ル由テ其ノ他當地方ノ土地利用ノ特典
等ニヨリ哈爾濱其ノ他北緯沿線カラ移住シテ來ル者モアルノテ人口ハ急
激ニ増加ノ傾向ヲ辿ツテ居ルコトハ個々ノ村ニ就テ昨年度ニ比較シ
テ充分確メルコトカ出來タ。又ハリル河沿岸ニハ現在露人ノ跡ヲ絶ツニ
至ツタカ此ノ方面カラノ移住者モ近年三河各村ノ人口増加ノ一因ヲナシ
テ居ル譯テアル

當地方ノ土地ハ私有ヲ許サナイカ開墾利用ニハ制限カ少イノテ農耕、牧
畜ノ發展カ大イニ期待セラレ、現ニゼルブール、ガン兩河ノ上流ニ同ツ
テ開拓ノ傾向カ見エ、特ニカブコージ溫泉方面ニ農牧地ヲ擴張ノ餘地ア

リト見ラレ將來ハ結局現在ノ人口ノ三倍ヲ抱擁出來ルト言ハレテ居ル
 當地方住民ノ産業ハ自給的色彩ノ強イ牧主農從テアツテ、畜產品ノ内
 特ニバターヲ村民ノ協同組合ヲ通シテ北滿市場ニ賣出シ其ノ代價ヲ以テ
 日用雜貨ノ購求ニ充テ、農業收穫ハ現在迄ノ所此ノ地方住民ノ自家用ヲ
 餘リ超過シナイ数量ニ止ツテ居ル

元來呼倫貝爾地方ハ南北滿洲ニ珍シイ黑土地帶テ素人目ニモ地味ノ肥
 沃カ肯カレル。夫レ故海拉爾市場ニハ玉葱ヲ除キ殆ト有リ凡ユル穀類及
 蔬菜ノ出揃ツテ居ルノヲ認メル。斯様ナ肥沃ナ土地ヲ廣大ニ控エナカラ
 此ノ地方カ未タ幾ラモ開墾サレテ居ナイコトハ海拉爾カラ三河ニ至ル途
 中ノ草原ヲ見テモ明カテアル。尤モ是ハ草ヲ除キ去ツテ農業ニ從事スル
 コトカ蒙古人ノタブー（禁忌）トナツテ居タ關係ニモヨルノテ、斯様ナ
 制限ヲ維持スルコトハ蒙古人ノ游牧生活ヲ保護スル意味テ相當必要テモ
 アラウカ從來農業ノ發達ヲ阻害シテ來タニハ相違ナイ。三河地方ハ幸ス
 様ナ意味ノ制限ハ撤セラレテ居ルケレトモ何シロ北鐵沿線地帶カラ相當
 距離ヲ距テテ居ル交通ノ不便ト其ノ上、沿線ソノモノノ經濟生活モ現在

北鐵運費ノ異常ナ高率ヤ列車運行ノ不活潑即チ上リ下リ各一週三回ト謂
フ様ナ沈滞シタ状態ニ司配サレテ居ルタメニ、三河地方ノ開發モ從來ハ
刺戟不足ノ觀カアツタト思ハレル。併シ近ク北鐵讓渡ノ曉ハ早晚沿線カ
一般ノ活況ヲ呈シ來ルト共ニ、三河地方モ現在ノ恰モ貨幣經濟以前ノ様
ナ半開ノ状態ヲ脱スル様ニ次第ニ發展ヲ見ルテアラウ

牧畜

三河地方住民ノ生業ハ牧畜特ニ牛ノ飼育ヲ主トシ、耕作ハ從位ニ立ツテ居ル。海拉爾カラ三河ニ至ル途中モ然ウテアルカ、三河地方ノ到ル所尙斜緩漫ナ丘陵地ハ夏季良好ナ牧草ニ蔽ハレテ居ル。ソレタケ牧畜ハ將來益發達ノ餘地カアル。

「山陵ハ大部分良好ナ野草ニ被ハレ、樹木ヲ見ルコトハ稀テアル。ソレ故頂上マテモ牛、羊、或ハ馬ノ放牧地トシテ、又ハ草刈地トシテ利用スルコトカ出來ル。然シ川ノ兩岸ハ流石ニ白楊、白樺其ノ他ノ樹木カ密生シテ居ル。一般ニ河川ノ流域地方ハ濕潤ニシテ、夏期ハ家畜ノ放牧ニハ不便テアリ、且草種モ家畜ノ飼料トシテ不適ノモノ多ク草刈地トシテモ亦利用サルコト少イヤウテアル」(農業ノ滿洲九年一月號—吉永氏—)

村ノ最近クハ放牧地、次ニ草刈地、其ノ次ニ耕地トイフ順序ニナツテ居ルノテ耕地ハ部落カラ一里以上二、三里モ距ツテ居ルノカ普通ナル。稀ニハ其レ以上數里モカケ離レテ居ル例モアルカ、普通村ト村

ノ間隔カ五―六里ヲ其ノ中間ニ兩方ノ村ノ耕地カ緩傾斜ノ山腹ニ作ツ
テアル。此ノ山腹開墾ノ理由ニツイテハ後述スルカ、耕地カ斯様ニ村
落ノ近邊ニハ見當ラナイノテ有畜農カ殆ト例外ヲナシテ居ル日本内地
ノ農村ヲ見慣レタ目ニハ聊カ異様ニ感セラレル。尙放牧地ノ關係テ、
部落間ノ距離ハ現在以上短縮密集出來ナイトイフ說モアリ、當地方ノ
地味カ肥ヘテ居ルカラトテ農耕ヲ主トシテ家畜ヲ無視スル邦人農業移
民ヲ此ノ地方ニ割込マスコトハ餘程考ヘ物テアルト思ヘレル。邦人ノ
移民ハ滿洲國中央政府ノ指示ニ俟ツノテアルカ目下未解決ノママテア
ル。筆者等ノ考テハヒトリ三河地方ノミナラス、北鐵沿線ノ白系縣人
ハ乳產物生産ノ方面ニ今後益利用スヘキテアラウト思ハレル。

三河地方ニ於ケル家畜ハ牛、馬、羊ヲ主トシ豚及家禽ノ數ハ僅少テ
アル。一九三三年十二月調ニヨレハ牛ノ總頭數一四一九五頭ノ内牝牛
四三三六頭、牡牛一三八六頭、種牛一二二頭、二才牛一、九九七頭、一
才牛二、八〇二頭、一才未滿三、五五二頭トナツテキル。

馬ハ總數四、二四六頭内種馬一〇〇頭、去勢馬一、三〇八頭、成馬牝一、三

七五頭、二才馬四七七頭、一才馬四七一頭、一才未満五一五頭トナツ
 テ居リ、羊ハ總數一三、五五七頭トナツテ居ル。唯羊ノ頭數ハ別ノ調ニ
 ハ二倍以上ニ出テ居ルシ村民ノ申告ニ大イニ掛値カアル故、何レモア
 マリ當テニナラナイ。關東軍參謀部八年八月發表ノ調ニヨレハ乳牛セ
 〇〇〇頭、馬二、四〇〇頭羊一三、〇〇〇頭トナツテ居ル。

牛ノ飼養ハ夏季ハ放牧シ冬季ハ庭ニ木柵ヲ繞ラシタタケノ所ニ收容
 シ幼少ノ仔畜タケヲ人ノ起居スル燐房ノ片隅ニ收容シ、飼料ハ四季ヲ
 通シ濃厚飼料ヲ一切用キス、生草ト乾草タケヲ與ヘル。牛ハ優良種カ
 少ク將來改良ノ必要アルコトハ專門家ノ認メル所テアル。擠乳ハ朝夕
 二回之ヲ行ヒ、自家用以外ノ剩餘ハ如何ナル寒村ニモ普及シテキル製
 酪組合ノ牛乳買入所兼タリーム工場ニ持參シテ通調ニ記入ヲ受ケル。
 製酪組合ハ生産組合ト消費組合ヲ兼ネタ協同組合テ、各村ノ農家ノ大
 部分力之ニ加入シ、小サナ村ニハ牛乳ヲタリームニ化スルセパレーム
 ー（脂肪分離器）ノミヲ備ヘル分工場カアリ、斯様ナ隣接スル數ヶ村
 カ共同シテ中心ノ一村ニバター工場ヲ有シ、各村ノ分工場カラケリ。

ムトシテ毎日或ハ隔日ニ馬車ヲ運搬シ來ルモノヲバター製造ニ使用スル。而テ此ノバター工場ニ附屬スル賣店カラ各村民ハ日用ノ雜貨ヲ受取ルノテアル。三河地方ニハ從來十六、七箇村カス様ナ製酪組合ノ三大系統ニ分レ・ドラガツエンカ村ノ工場ヲ中心トスル數箇村ノ一團・ウエルフタリー村工場ヲ中心トスル一團・チエロートウイ村工場ヲ中心トスル一團ニ分レテ居タ。當地方ニ牛酪工場ノ發生ヲミタ最初ハ北滿ノ林區所有者トシテ名高カツタウオンツオフノ工場テアツテ、一九二四年以來存在シ、一時壓倒的勢力ヲ有シ牙克石^{ヤクシ}ヲ始メ牙克石街道及三河地方ノ主要部落ニ工場ヲ設ケ、部落内ハ勿論其ノ附近ノ牛乳ヲ買集メテ居タ。此ノ間二三ノ企業家カ工場設立ヲ試ミタカ、ウオロンツオフニ競争シ得スニ退イタ。其後一九三〇年前後ウオロンツオフノ三河地方工場閉鎖後同地方住民カ代ツテ自ラ組合工場ヲ組織シタノテアツタ。一九三一年末ウエルフタリー工場トドラガツエンカ工場ノ合同カ成リ更ニ一九三三年五月三河地方全工場ノ合同カ實現ヲ見タカ本年（一九三四年）春資金難ヲ主要原因トシ、又元來紛争ヲ好ムザバイ

カル人ノ性癖ノタメニ折角ノ合同カ分裂シテシマツタ

組合工場ノ外ニ現在ラブダリン村ニウスターンツォーフノ小規模ナ工場トウスチタリ一村ニ同人所有ノ牛乳買入所カアル。組合ノ合同分裂後モ製品ノ販賣ハ依然共同シ買入其ノ他ハ獨立ニ行フコトトナリウニルア。タリ。ラブダリン、ボクロフカノ三村ニテ一組合ヲナシ。ウスチ。タリ。ハ一村タケテ獨立シウスチ。ウルガトウエルフ。ウルガ。合同シテ居ルトイフ様ニ小ク分レルニ至ツタ。

三河地方ノバター及チーズノ生産額ハ書物ニヨツテハ々異ツテ居ル一農業ノ滿洲一誌九年一月號ニハ一三河地方ニ於ケル最近一年ノバター及チーズ製造高ハ約五〇〇〇布度、價額約一四〇、〇〇〇元ト謂ハルトアリ、關東軍參謀部發表、大連新聞八年八月六日ノ三河事情記事ニハ三河地方住民ノ消費量ヲ排除シテ移出サルル生産物ハ概略左ノ如シトアル。

バター、チーズ

四五〇〇布度

毛皮類

一〇、〇〇〇元